

## 【議事】

- (1) 宇宙開発委員会計画部会の設置について
- (2) 我が国の宇宙開発政策について
- (3) 我が国の宇宙開発をとりまく環境について

文科省の池原光洋参事官（宇宙航空政策担当）が資料1-1 と資料1-2 を説明し、文科省の渡辺格開発企画課長が資料1-3 を説明した。その後短い質疑応答があった。

青江：（池原参事官の説明の語尾が、「こととされています」を多発したことを指摘し）「…ことにしている」である。

澤岡：渡辺課長の資料説明で「中国は運用実績がある」との発言があったが、何の実績をさしているのか。また、APSCO について中国から日本への参加呼びかけはあったのか。

渡辺：打上げ実績のことを言った。中国からAPSCO 参加の呼びかけはあったが、断った。

棚次：NASA はCOTSの計画を進める中で、5月12日に民間にISSの物資輸送の入札を行ったところ、ボーイングとロッキードマーチンの大手が落ちてしまい、絞り込まれた6社は全てベンチャーであった。わが国でも「民にできることは民で」と言われてきているが、技術的なことか資金的なことか、余りはっきりと書かれていない。「実施困難なリスクの大きい研究開発」との表現は、技術的なリスクをさしているようではあるが、どうも明確でない。

青江：それに対する応えはなかなか難しいと思う。正にこのようなことをこれから先にご議論いただくことになる。

棚次：それなら良いのだが、資料1-2はもう決まったことのように

に見えたので。

青江：新しい環境、諸条件を勘案し、将来に向けた新しい政策<sup>1</sup>を決めていただくのがこの場と考えている。

棚次：変わり得るといふことなのか。

青江：私はそのように考えている。4年前に目論見があつて決めた。しかし、違って来たという現状である。当局はどのようにお考えか？

森口：この7年間くらい、宇宙予算が減る中で、民間の資金を頼った。うまくいかなかったところが大きいと思っている。また、ISSについても、有人活動はアメリカに頼っており、シャトルのトラブルは目論見違いであった。国内もさまざまなトラブルがあり、その対応に忙殺されなかなか本質的な議論ができていなかった。

井口：うまくいっていないことの一つが責任の問題である。しかし、民間移管は遅いとはいえ進んでいる。また、メーカーの自覚が高まったことは確かである。更に、MTSAT、Super Bird 7 では競争に勝って入札している。

---

<sup>1</sup> 「長期的な計画」を検討するとの表題ながら、「政策」と簡単におっしゃる。「計画」と「政策」の違いを意識されていないので、このような発言になるのであろうが、今欲しいのは「計画」ではなくて「政策」なのである。